

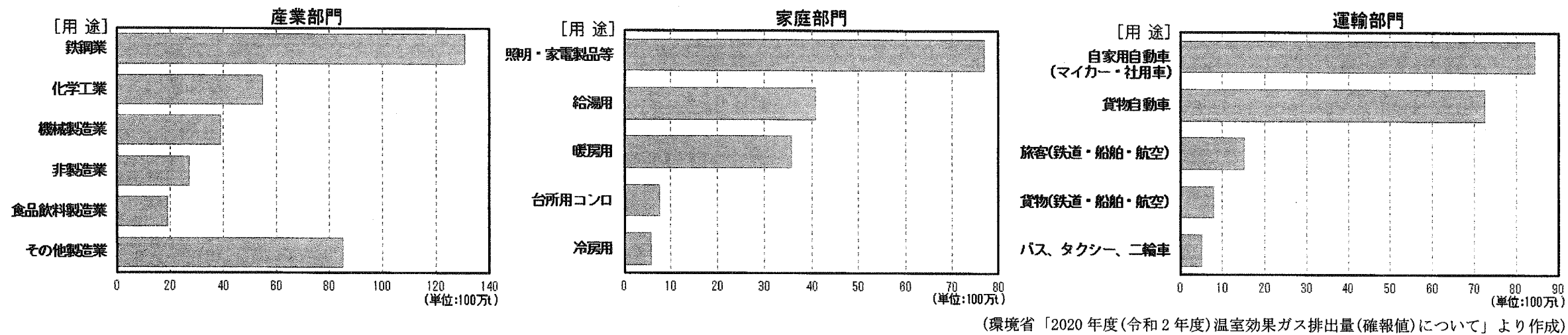
【資料1】 全国の二酸化炭素排出量の状況(2000 年度～2020 年度)

	排出量(単位:100 万 t)			2020 年度の伸び率(単位:%)	
	2000 年度	2010 年度	2020 年度	2000 年度比	2010 年度比
産業部門	495	422	356	-28.1	-15.6
家庭部門	167	172	166	-0.6	-3.5
運輸部門	256	232	185	-27.7	-20.3
その他※1	319	366	337	-5.6	-7.9
合 計	1,237	1,192	1,044	-15.6	-12.4

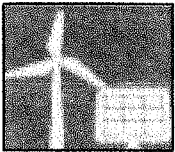
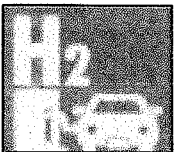
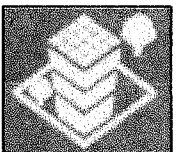
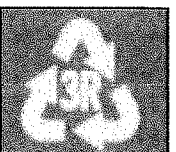
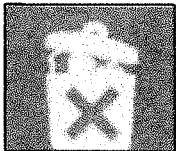
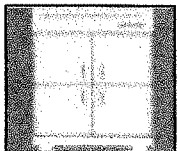
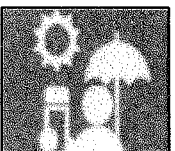
(内閣府「2000 年度(平成 12 年度)の温室効果ガス排出量について」、環境省「2010 年度(平成 22 年度)の温室効果ガス排出量(確報値)について」及び環境省「2020 年度(令和 2 年度)温室効果ガス排出量(確報値)について」より作成)

※1 その他 … 上記の 3 部門以外、及び工業プロセス、廃棄物等が該当する。

【資料2】 資料1 の各部門における用途別二酸化炭素排出量の比較(2020 年度)



【資料3】 東京都が掲げる環境問題に関する各政策

再生可能エネルギーの 基幹エネルギー化 	水素エネルギーの 普及拡大 	ゼロエミッション※2 ビルの拡大 	ゼロエミッション ビークル※3の普及推進 	3 R※4の推進 
プラスチック対策 	食品ロス対策 	フロン※5対策 	適応策※6の強化 	

(東京都「ゼロエミッション東京戦略の概要」より作成)

※2 ゼロエミッション … 生活に必要な生産活動により発生する環境汚染物質、廃棄物、排熱など、すべての排出物を可能な限り最小化しようという考え方。

※3 ビークル … 車両の総称。乗り物。また、輸送手段。

※4 3 R … 廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の総称。

※5 フロン … かつてオゾン層の破壊の原因とされたフロンガスは規制されたが、代わりに開発された代替フロンの温室効果が気候変動に与える影響が大きいことから規制がはじめられた。

※6 適 応 策 … ここでは、気候変動による被害を回避・軽減する適応策のこと。

1

東京都は現在、都内温室効果ガス(二酸化炭素等)排出量を50%削減(カーボンハーフ)するという目標を掲げています。次の【資料1】・【資料2】・【資料3】は、全国及び東京都の環境問題に関する資料です。

【資料1】のうち産業部門、家庭部門、運輸部門のそれぞれについて、2000年度から2020年度までの二酸化炭素排出量の変化の様子を述べ、そこから考えられる最も改善すべき部門を指摘しなさい。次に、その部門の排出量を減らすために社会全体で取り組む改善策を、【資料2】のその部門における用途の中から1点、【資料3】の各政策の中から1点に必ず触れて、具体例を挙げながら書きなさい。

なお、この問題の解答にあたっては、最初のマス目から書き始め、段落分けをせず、全体を三〇〇字以内とすること。